

わが街 Watching My Town Watching

市内3隣保館が合同で開催

田川市隣保館合同文化祭

3月14日・15日、田川文化センターと田川青少年文化ホールで「田川市隣保館合同文化祭」が催され、上伊田・中央・弓削田の隣保館で学習している受講生436人が、日頃の学びの成果を発表しました。

会場には、両日ともに、生け花や書道、陶芸など278点の力作が展示され、15日は福岡県人権研究所副理事長の堀内忠^{ほりうち}さんによるミニ講演会の後、舞台発表が行われ、延べ約130人が歌や踊り、健康体操などを披露しました。

日舞を披露した古谷鈴江^{ふるちすずえ}さん(弓削田)は「とても緊張しましたが、うまく舞うことができました。来年の文化祭に向けて、さらに練習を重ねます」と笑顔で話しました。



▲元気いっぱいにヒップホップダンスを踊る子どもたち

伝統文化を次世代につなぐ

田川民俗芸能祭

3月21日、田川文化センターで「第2回田川民俗芸能祭」が催され、約1,200人が会場を訪れました。

この催しは、一般社団法人田川広域観光協会により、地域に伝わる民俗芸能を次世代へつないでいく機運を高めるきっかけにしようといわれたもので、昨年に続き2回目の開催。

第1部では、伊加利人形芝居保存会や上伊田西地区獅子楽保存会、春日神社岩戸神楽保存会など田川市郡の10団体が、福岡県や各市町村の無形民俗文化財に指定されている伝統的な民俗芸能をそれぞれ上演しました。第2部では、田川民謡会など、地域や日本の民俗芸能に取り組んでいる田川市郡の8団体の子どもたちが、日頃の練習の成果を発表。各団体が披露するユーモラスな動きや一糸乱れぬ動きなどに、客席からは笑い声や歓声が上がりました。

また、昨年8月に「田川まると応援団長」に就任した歌手の依布サラサさんが特別ゲストとして登場し、トークや歌を披露したほか、第2部に出演した子どもたちにインタビューする場面もあり、会場は温かい雰囲気になりました。



▲気持ちをひとつに人形を操作する伊加利人形芝居



▲上伊田西地区獅子楽では獅子舞に稚児が彩りを添えました



▲幻想的な雰囲気の中披露された春日神社岩戸神楽



▲きらびやかな着物姿で踊る田川民謡会



▲依布サラサさんがゲストで登場